



(福井)

福井城跡は、現市街中央に位置する近世城郭跡である。慶長六年(一六〇一)初代福井藩主松平(結城)秀康による築城以来、幕末まで利用された。近代以降は徐々に取り壊され、今に残るのは、本丸石垣と堀のみである。なお城構えなどは、現存するいくつかの絵図などの記録から想定されている。

今回の発掘調査地は、西の外曲輪にあたる。調査で

## 福井・福井城跡

- 1 所在地 福井市大手一丁目ほか
- 2 調査期間 一九九四年(平6)九月～一九九五年四月
- 3 発掘機関 福井市教育委員会
- 4 調査担当者 長谷川健一・田邊朋宏
- 5 遺跡の種類 近世城郭跡
- 6 遺跡の年代 縄文時代・古代～近世
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

は、遺構面を三面認めたが、このうち木簡が出土したのは、中世末から近世初頭と考える第二遺構面である。なお、第一遺構面は近世、第三遺構面は福井城以前の古代集落跡である。

木簡は現時点で一〇点確認している。これらは第二遺構面で大量に検出した、ゴミ穴(調査時仮称)から出土したものである。ゴミ穴からは、箸や曲物、漆碗など木製品が大量に出土した。

### 8 木簡の釈文・内容

一八区第二ゴミ穴(仮称、以下同様)

(1) [ > □ □ □ ] [城カ] 109×21×6 033

(2) [ > 陌田 □ 源五郎 ] (142)×34×5 039

二〇区「ミ」穴

(3) [ > □ □ 御川 ] [杓カ] (153)×43×5 033

[ > □ □ ] [郷カ]

二二区「ミ」穴

(4) [ □ □ ] [清カ] [花]

[ □ □ ]

(45)×18×3 081

(5) 〔折カ〕

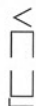
95×21×3 032

二六区第二ゴミ穴

(6) 

(90)×25×3 039

三二区ゴミ穴

(7) 

(90)×25×3 033

(8) 弥雨登留亭

(163)×25×4 059

三二区溝一

(9) 〔美カ〕

(96)×21×5 039

F区ゴミ穴

(10) 〔四郎カ〕

115×22×4 032

(1)は上辺に削り、上部左右に切り込みをいれ、下端の左右を削り尖らせる。墨書は片面にあると思われるが、不明確である。(2)は上部左右に切り込みが入るが、上部は欠損する。下部もまた欠損して

いる。(3)は上部左右に切り込みが入るが、その上部は欠損する。下部は緩く削り尖らせるが、先端は欠損する。(4)は上下とも欠損する。(5)は上部左右に切り込みが入るが、左側上部は欠損する。(6)は上部左右に切り込みが入るが、上部は欠損し、下部もまた欠損している。墨書は片面にあると思われるが、不明確である。(7)も上部左右に切り込みが入るが、上部は欠損している。下部は削って尖らせる。墨書は片面にあると思われるが、不明確である。(8)の上部は欠損している。下部は削って尖らせる。(9)は上部左右に切り込みが入るが、下部は欠損する。

以上の一〇点が現時点までの整理作業で確認されているが、整理作業途上であるため、遺構名は仮称を用いさせて頂いた。このほか上部に切り込みはあるが、墨書の有無が判別できない付札状木製品が四点ある。

釈読については、足立尚計氏（福井市郷土歴史博物館学芸員）に協力を賜った。

（長谷川健一）